

2026 年度 春期講習会 No7~No12

# 高 1 英語総合 S

Mastery Notes

**No 7**

【2】〔標準問題〕《時を表す副詞節》

(1)《慶応義塾大》

第1文

I'm sitting in Small World Coffee, / a coffee shop near Princeton University.

私はスモール・ワールド・コーヒーに座っている / プリンストン大学の近くにあるコーヒー店で

☑ 私は、プリンストン大学の近くにあるコーヒー店、スモール・ワールド・コーヒーに座っている。

I'm sitting in Small World Coffee が文の中心である。I'm sitting は現在進行形で、『私は座っている』を意味する。in Small World Coffee は『スモール・ワールド・コーヒーで』という場所を表している。

a coffee shop near Princeton University は Small World Coffee を説明する同格表現である。a coffee shop は『1つのコーヒー店』、near Princeton University は『プリンストン大学の近くの』を意味する。

第2文

I'm here / because my editor has ordered up a story / on the question of whether caffeine makes you smarter.

私はここにいる / なぜなら私の編集者が記事を用意するよう命じたからであり / カフェインが人をより賢くするかどうかという問題についての

☑ 私はここにいる。なぜなら、私の編集者が、カフェインは人をより賢くするかという問題についての記事を書くように命じたからである。

I'm here / because ... と切ることで、「結論」から「理由」へ進む構造がはっきりする。

because my editor has ordered up a story は理由の中心部分で、『私の編集者が記事を書くよう命じたから』を意味する。ここでの order up は『要求する、用意させる』という意味で使われている。a story はここでは『記事』を意味する。

on the question of whether caffeine makes you smarter は a story を説明している。on the question of ~ は『~という問題についての』whether caffeine makes you smarter は『カフェインが人をより賢くするかどうか』を意味する。make O C で『OをCにする』という形であり、you smarter は『人をより賢くする』である。

第3文

And without three espressos today / instead of the regular two, / I wouldn't feel equal to the task.

そして今日 3 杯のエスプレッソがなければ / いつもの 2 杯ではなく / 私はその仕事をこなせる気がしないだろう

☑そして、今日、いつもの 2 杯ではなく 3 杯のエスプレッソがなければ、私はその仕事をこなせる気がしないだろう。

---

without three espressos today instead of the regular two は条件に近い副詞句である。without ~ は「『~なしに』」を意味し、ここでは「もし 3 杯のエスプレッソがなければ」という仮定的な意味を表している。instead of the regular two は「『いつもの 2 杯の代わりに』」であり、今日は特に 1 杯多く必要だということを示している。

I wouldn't feel equal to the task は、「『私はその仕事をこなせる気がしないだろう』」を意味する。feel equal to ~ は「『~に対処できると感じる』『~をやるだけの力があると感じる』」という表現である。the task は、前文の「記事を書く仕事」を指している。

【ポイント】

・ instead of ~ は「『~の代わりに』」。

---

第 4 文

But experience tells me / that as soon as the strong dose of caffeine takes effect, / I immediately become more alert, focused, quick-witted, clever.

しかし経験は私に教える / 強い量のカフェインが効き始めるやいなや / 私はすぐに、より注意深く、より集中し、より機転が利き、より頭が冴えると

☑しかし経験からすると、強い量のカフェインが効き始めるやいなや、私はすぐに、より注意深く、より集中し、より機転が利き、より頭が冴えた状態になる。

---

But experience tells me that ... が文の骨格である。experience はここでは「『経験』」であり、話し手自身の実感の積み重ねを意味する。tell 人 that ... は「『人に...だと教える』」という重要表現である。

as soon as the strong dose of caffeine takes effect は that 節の中の時を表す副詞節である。ここが今回の中心である。as soon as SV ... は「『SV するやいなや』『SV するとすぐに』」という意味を表す重要表現である。したがって、as soon as the strong dose of caffeine takes effect は「『強い量のカフェインが効き始めるやいなや』」という意味になる。the strong dose of caffeine は「『強い量のカフェイン』『かなり強いカフェイン摂取量』」を意味する。take effect は「『効き始める、効果を表す』」という重要表現である。

I immediately become more alert, focused, quick-witted, clever は、「『私はすぐに、より注意深く、より集中し、より機転が利き、より頭がよくなる』」を意味する。

---

第 5 文

As far as I'm concerned, / the case is already closed.

私に関する限り / その件はすでに決着がついている

✔ 私としては、その件はもうすでに決着がついている。

As far as I'm concerned は『私に関する限り』『私としては』という重要表現である。話し手の立場・判断を示す。ここでの as far as SV は、『～する限りでは』『～に関する限り』という範囲を表す表現である。たとえば As far as I know は『私の知る限りでは』を意味する。

the case is already closed は『その件はすでに決着がついている』を意味する。the case はここでは『問題、論点』を意味し、カフェインが頭をよくするかどうか、という問いを指している。be closed は『決着がついている、終わっている』という意味である。

## (2)《岡山大》

### 第1文

The central brain in the octopus / is very developed.

タコの中樞の脳は / 非常によく発達している

✔ タコの中樞の脳は、非常によく発達している。

The central brain in the octopus が主語である。the central brain は『中樞の脳』を意味し、in the octopus が『タコの』という意味を添えている。

is very developed は『非常によく発達している』を意味する。developed はここでは形容詞的に使われ、『発達した』という意味である。

### 第2文

It deals with / visual information, memory and such.

それは扱う / 視覚情報、記憶などを

✔ それは、視覚情報や記憶などを扱う。

It は前文の The central brain を受けている。deals with ~ は『～を扱う』という重要表現である。

visual information, memory and such は deals with の目的語で、『視覚情報、記憶、そのほかそのようなもの』を意味する。and such は『など、そのようなもの』という意味である。

### 第3文

The moment the brain wants / to make the arm do a certain task / like sending the arm to a specific target, / it sends a command / to the nervous system of the arm, / which then orders the movement.

脳が望むその瞬間に / 腕にある特定の仕事をさせたいと / たとえば腕を特定の目標へ送るような / それは命令を送る / 腕の神経系へ / そしてそれがその動きを命じる

☑️ 脳が、腕に特定の仕事、たとえば腕をある決まった目標へ向かわせることをさせたいと思ったその瞬間に、脳は腕の神経系へ命令を送り、するとその神経系が実際の動きを指令する。

---

The moment the brain wants ... , it sends a command ... が文の骨格である。ここが今回の中心である。the moment SV ... は『『SV するその瞬間に』『SV するとすぐに』』を意味する表現である。接続詞のように働き、as soon as SV に近い意味を表す。したがって、The moment the brain wants ... は『『脳が～したいと思ったその瞬間に』』という意味になる。

the brain wants to make the arm do a certain task は、『『脳が腕にある特定の仕事をさせたいと思う』』という意味である。ここで make O do は『『O に～させる』』という重要構文である。the arm = 腕 do a certain task = ある特定の仕事をやるのである。

like sending the arm to a specific target は a certain task の具体例で、『『たとえば腕を特定の目標へ送るような』』という意味である。specific target は『『特定の目標』』を意味する。

主節の it sends a command to the nervous system of the arm は、『『それは腕の神経系へ命令を送る』』を意味する。ここでの it は the brain を受けている。send a command to ~ は『『～に命令を送る』』という表現である。

最後の which then orders the movement は the nervous system of the arm を受ける関係詞節である。which は『『そしてそれが』』と訳せる。then は『『それから、その結果として』』を意味する。orders the movement は『『その動きを命じる』』である。ここでは、中枢の脳が直接細かい動作を行うのではなく、腕の神経系に指令を伝え、その神経系が具体的な運動を決める、という仕組みが説明されている。

---

### 【3】[英文解釈]《大阪大》

#### 第1文

Our knowledge and our power / have been enriched and increased / to an extent that no one would have thought possible.

私たちの知識と私たちの力は / 豊かにされ、増大してきた / だれも可能だとは思わなかったほどの程度にまで

☑️ 私たちの知識と力は、だれもそれほどまで可能だとは思わなかったほどの程度にまで、豊かになり、増大してきた。

---

Our knowledge and our power が主語で、『『私たちの知識と力』』を意味する。ここでの power は、単なる腕力ではなく、自然や社会に働きかける人間の能力・力を広く指している。

have been enriched and increased は現在完了の受動態で、『豊かにされ、増大してきた』を意味する。現在完了になっているので、過去から現在に至るまで、その発展が積み重なってきたことを表している。

to an extent that no one would have thought possible は程度を表す部分で、『だれも可能だとは思わなかったほどの程度にまで』という意味である。to an extent は『ある程度にまで』、that 以下がその程度を具体的に説明している。would have thought possible は仮定法過去完了を含む形で、『そうなるとは思わなかっただろう』という意味になる。つまり、人類の進歩は、以前の人々の想像を超えるほど大きかった、ということを表している。

【ポイント】

・ to an extent that ... は『…するほどの程度にまで』を表す。

## 第2文

We have thereby been enabled / to make the conditions of human existence / incomparably more favourable / in numerous respects, / but in our enthusiasm over our progress in knowledge and power / we have arrived at a defective conception of civilization itself.

私たちはそれによって可能にされてきた / 人間存在の条件を / 比べものにならないほどより好ましいものにすることが / 多くの点で / しかし知識と力における私たちの進歩に対する熱狂のあまり / 私たちは文明そのものについての欠陥ある考え方に至ってしまった

✔ 私たちはそれによって、人間の生存条件を多くの点で比べものにならないほど好ましいものにすることができるようになった。だが、知識と力の進歩に対する熱狂のあまり、文明そのものについて欠陥のある考え方に至ってしまった。

We have thereby been enabled to make the conditions of human existence ... が前半の中心である。thereby は『それによって』を意味し、前文の「知識と力の増大」を受けている。have been enabled to do は『～することができるようにされてきた』という意味で、自然な日本語では『～できるようになった』と考えるとよい。

to make the conditions of human existence incomparably more favourable in numerous respects は、『人間の生存条件を、多くの点で、比べものにならないほど好ましいものにすること』を意味する。the conditions of human existence は『人間存在の条件』『人間の生存条件』incomparably more favourable は『比べものにならないほど、いっそう好ましい』in numerous respects は『多くの点で』である。ここでは、人類の進歩によって生活条件が大きく改善されたことが述べられている。

but in our enthusiasm over our progress in knowledge and power は逆接の前置きで、『しかし知識と力における私たちの進歩に対する熱狂のあまり』を意味する。

enthusiasm over ~ は『～に対する熱狂』である。

we have arrived at a defective conception of civilization itself は、一まとまりで『私たちは文明そのものについて欠陥のある考え方に至ってしまった』を意味する。a defective conception は『欠陥のある考え方、不完全な理解』である。civilization itself の itself は『文明そのもの』と強調している。つまり、文明を発展させてきたつもりが、その文明の本質についてはむしろ誤った理解を持つようになってしまった、という皮肉が述べられている。

【ポイント】

・ we have arrived at a defective conception of civilization itself は一まとまりで取ると自然。

---

第3文

We value too highly its material achievements, / and no longer keep in mind / as vividly as is necessary / the importance of the spiritual element in life.  
私たちはその物質的成果をあまりにも高く評価しすぎている / としてもはや心に留めていない / 必要なほど鮮明には / 人生における精神的要素の重要性を

☑ 私たちは文明の物質的な成果をあまりにも高く評価しすぎしており、人生における精神的要素の重要性を、必要なほど鮮明には、もはや心に留めていない。

---

We value too highly its material achievements は一まとまりで、「『私たちはその物質的成果をあまりにも高く評価しすぎている』」を意味する。value は『評価する』、too highly は『あまりにも高く』という意味で、評価が行き過ぎていることを示している。its material achievements の its は civilization を受けており、『その物質的な達成・成果』を意味する。ここでの material は物質的・外面的な面、つまり科学技術や経済的発展のようなものを指している。

and no longer keep in mind as vividly as is necessary the importance of the spiritual element in life が後半である。no longer は『もはや～ない』を意味する。keep in mind ~ は『～を心に留めておく、忘れないでいる』という重要表現である。

as vividly as is necessary は『必要なほど鮮明には』という意味である。vividly は『生き生きと、鮮明に』を意味し、ここでは「その重要性をはっきり意識する」という意味になる。the importance of the spiritual element in life は『人生における精神的要素の重要性』を意味する。spiritual element は、宗教的という意味に限らず、精神的価値、内面、心の豊かさ、道徳的な面などを広く指している。

---

**No8**

【2】(1)《福井県立大》

第1文

“Women tend to have a stronger desire / to write about and reveal their feelings, / and they are also better / at talking about their experiences,” /

she says.

「女性はより強い欲求を持つ傾向がある / 自分の感情について書いたりそれを明らかにしたりするという / そして彼女たちはまたより得意でもある / 自分の経験について話すことに / と彼女は言う

☑「女性は、自分の感情について書いたりそれを明らかにしたりしたいという欲求がより強い傾向があり、また自分の経験について話すことにもより長けている」と彼女は言う。

Women tend to have a stronger desire が前半の中心である。Women が主語で、『女性は』を意味する。tend to do は『～する傾向がある』という重要表現である。a stronger desire は『より強い欲求』を意味する。

次の to write about and reveal their feelings は desire を説明する不定詞句で、『自分の感情について書いたり、それを明らかにしたりすること』を意味する。

そのあとに and they are also better at talking about their experiences が並列で続く。they は Women を受けている。be better at ~ は『～することにより長けている』という意味である。もとの形として be good at ~ 『～が得意である』があり、better はその比較級である。talking about their experiences は『自分たちの経験について話すこと』を意味する。

## 第2文

Furthermore, / Karlin feels / “Japan has seen a rising wave of female bloggers / because it is the only advanced industrial country / where large numbers of highly educated women are unemployed / after they get married.

さらに / カーリンは考えている / 「日本では女性ブロガーの高まりつつある波が見られてきたと / なぜならそれは唯一の先進工業国だからである / そこでは多数の高学歴の女性が無職になる / 結婚したあとに

☑さらにカーリンは、「日本では女性ブロガーの増加の波が見られてきた。なぜなら日本は、結婚後に多くの高学歴女性が職を持たなくなる唯一の先進工業国だからである」と考えている。

Furthermore は『さらに』を意味する副詞で、前の内容に追加情報を加えている。

moreover, what is more もほぼ同様に『そのうえ、さらに』を表す表現である。

次に Karlin feels が文の骨格である。Karlin が主語、feels が動詞で、『カーリンは考えている』を意味する。ここでの feels は感覚ではなく、『～だと感じる、考える』という意味で用いられている。

そのあとに引用の中で Japan has seen a rising wave of female bloggers が述べられる。Japan has seen ... は『日本では～が見られてきた』という意味で、現在完了形により継続的な流れを表している。a rising wave of female bloggers は『増えつつある女性

ブロガーの波』を意味する。なお、a/an + 形容詞 + 名詞 + of ~ の形は、数量・規模・まとまりを表す表現でよく用いられる。たとえば a large number of ~, a great deal of ~, a wide range of ~ などがある。ここでも a rising wave of ~ が、増加の広がり・うねりを数量的・比喩的に表している。

続く because it is the only advanced industrial country は理由を表し、『なぜならそれは唯一の先進工業国だからである』を意味する。ここでの it は Japan を指している。そのあとに where large numbers of highly educated women are unemployed after they get married が the only advanced industrial country を修飾している。ここでの where は country を先行詞とする 関係副詞 であり、『そこで、その国では』という意味で後ろの内容を導いている。

#### 【ポイント】

- ・ a rising wave of ~ は『高まりつつある～の波』を意味する。
- ・ a/an + 形容詞 + 名詞 + of ~ は、数量・規模・まとまりを表す表現が多い。

---

### 第3文

Through blogging, / these women are expressing the desire / to participate in a society / that tends to deny them a position / outside the home.”

ブログを書くことを通して / これらの女性たちは欲求を表現している / 社会に参加したいという / そしてその社会は彼女たちに地位を与えることを拒む傾向がある / 家の外での

☑ ブログを書くことを通して、これらの女性たちは、家庭の外で自分たちに居場所を与えようとしない社会に参加したいという欲求を表している。

---

Through blogging は文頭の副詞句で、『ブログを書くことを通して』を意味する。

through ~ は『～を通して』、blogging は動名詞で『ブログを書くこと』を表す。

次に these women are expressing the desire が文の中心である。these women が主語で、『これらの女性たちは』を意味する。ここでは前文の highly educated women を受けている。are expressing は現在進行形で、『表現している、表している』を意味する。the desire は『欲求』を意味する。

そのあとに to participate in a society が続き、the desire の内容を説明する不定詞句で、『社会に参加したいという』を意味する。participate in ~ は『～に参加する』という重要表現であり、take part in ~ もほぼ同じ意味で用いられる。

次の that tends to deny them a position outside the home は a society を修飾する関係詞節である。つまり、「どのような社会か」を後ろから説明している。deny them a position は SVOO の形で、deny = 動詞 them = 間接目的語 a position = 直接目的語となっている。したがって、deny O O は『O に O を与えない、O から O を奪う、O が O を持つことを認めない』という意味になる。この文では、deny them a position = 『彼女たちに地位を与えない』『彼女たちの居場所を認めない』という意味である。

さらに outside the home は a position を後ろから説明しており、『家庭の外での地位・居場所』を意味する

【ポイント】

- are expressing は現在進行形で、『表現している』を表す。
- that は a society を受ける関係代名詞である。
- deny O O は SVOO の形で、『O に O を与えない』『O が O を持つことを認めない』を意味する。

(2)《北海道大》

第1文

When I ask people worldwide / what are the three most important things in their lives, / 95 percent put “family” or “family relationships” / on the top-three list.

私が世界中の人々に尋ねると / 彼らの人生で最も重要な三つのものは何かと / 95 パーセントが「家族」または「家族関係」を置く / 上位三つの一覧に

☑ 私が世界中の人々に、人生で最も大切な三つのものは何かと尋ねると、95 パーセントの人が「家族」または「家族関係」をその上位三つの中に入れる。

When I ask people worldwide ... は時を表す副詞節で、『私が世界中の人々に尋ねると』を意味する。When は『～するとき』を表す接続詞である。I が主語、ask が動詞、people worldwide が目的語で、『世界中の人々に尋ねる』という意味になる。worldwide は here people を後ろから説明して『世界中の』という意味を添えている。

ここが今回の中心である。ask people worldwide what are the three most important things in their lives は、ask O 疑問詞節 の形になっている。つまり、ask = 動詞 people worldwide = 目的語 what are the three most important things in their lives = 「何が～か」という疑問の内容という形である。なお、ここでは what are the three most important things in their lives となっており、疑問文の語順 what are ... ? がそのまま用いられている。通常、間接疑問では what the three most important things in their lives are のように平叙文語順になることが多いが、この文では口語的・引用的に直接疑問に近い形が使われていると考えるとよい。

次に主節の 95 percent put “family” or “family relationships” on the top-three list が続く。95 percent が主語で、『95 パーセントの人が』を意味する。put A on the ... list は『A をその一覧に入れる』という意味である。

したがって put “family” or “family relationships” on the top-three list は『「家族」または「家族関係」を上位三つの一覧に入れる』という意味になる。

第2文

Fully 75 percent / put family first.  
実に 75 パーセントが / 家族を第一に置く

---

Fully 75 percent が主語である。75 percent は「『75 パーセントの人』」を意味する。文頭の Fully は強調の副詞で、「『実に、完全に、じつに～もの』」という意味を表す。ここでは、75 パーセントという数字の大きさを強調している。  
次の put family first が述語部分である。put A first は「『A を第一に置く』『A を最優先にする』」という重要表現である。したがって put family first は「『家族を最優先にする』」という意味になる。

---

### 第3文

Our greatest joys / and our deepest heartaches / surround / what's happening in our family life.

私たちの最大の喜びは / そして私たちの最も深い心の痛みは / 囲んでいる / 私たちの家族生活の中で起こっていることを

☑ 私たちの最大の喜びも、最も深い心の痛みも、家族生活の中で起こっていることをめぐって生じる。

---

Our greatest joys and our deepest heartaches が主語である。Our greatest joys は「『私たちの最大の喜び』」our deepest heartaches は「『私たちの最も深い心の痛み』」を意味する。heartache は「『心痛、胸の痛み、深い悲しみ』」を表す語である。  
次に surround が動詞である。直訳すると「『取り囲む』」だが、この文では自然な日本語としては「『～をめぐる』『～のまわりに集まる』」と考えるとよい。  
そのあとに what's happening in our family life が目的語として続く。what's happening は what is happening の短縮形で、「『起こっていること』」を意味する名詞節である。in our family life は「『私たちの家族生活の中で』」を意味する。

---

### 第4文

We want things / to be right.

私たちは物事が / 正しい状態であることを望む

☑ 私たちは、物事がきちんとあるべき状態であってほしいと願う。

---

We が主語で、「『私たちは』」を意味する。want が動詞で、「『望む』」を意味する。  
次の things to be right が want の目的語にあたる内容である。ここは want O to do / to be ... の形に近く、「『O が…であることを望む』」という意味になる。things はここでは「『物事、状況』」を意味し、特に文脈上は家族のあり方や家庭生活の状態を指している。to be right は「『正しい状態である』『きちんとしている』」を意味する。

---

### 第5文

When we sense a gap / between our vision of the rich, beautiful family life / we want to have / and the reality of every day, / we begin to feel “off track.”

私たちが隔たりを感じる時 / 豊かで美しい家族生活についての私たちの理想像と / 私たちが持ちたいと願う / そして日々の現実とのあいだに / 私たちは「道を外れている」と感じ始める

✔ 私たちが、手にしたいと願う豊かで美しい家族生活の理想像と、日々の現実とのあいだに隔たりを感じる時、私たちは「何かはずれている」「道を外れている」と感じ始める。

When we sense a gap ... は時を表す副詞節で、「『私たちが隔たりを感じる時』」を意味する。sense は「『感じ取る、気づく』」、a gap は「『隔たり、ずれ、差』」を意味する。

次の between our vision of the rich, beautiful family life we want to have and the reality of every day は、その gap の内容を示している。between A and B で「『AとBのあいだの』」という意味である。

まず our vision of the rich, beautiful family life we want to have は A にあたる部分で、「『私たちが持ちたいと願う豊かで美しい家族生活についての理想像』」を意味する。the rich, beautiful family life は「『豊かで美しい家族生活』」we want to have は family life を後ろから修飾する関係詞節で、「『私たちが持ちたいと願う』」を意味する。

次の and the reality of every day が B にあたり、「『日々の現実』」を意味する。理想と現実との対比である。

主節の we begin to feel “off track” は、「『私たちは“道を外れている”と感じ始める』」を意味する。begin to do は「『～し始める』」という基本表現である。off track は比喩的表現で、「『道を外れて』『本来あるべき方向からずれて』」を意味する。

【ポイント】

・ vision はここでは「『理想像、思い描く姿』」を意味する。

【3】〔英文解釈〕《大阪大》

第1文

Four and a half billion years ago, / the earth was formed.

45億年前に / 地球は形成された

Four and a half billion years ago は時を表す副詞句で、「『45億年前に』」を意味する。the earth was formed は受動態で、「『地球が形成された』」を表す。form は「『形成する』」という意味であり、ここでは自然の過程によって地球ができたことを述べている。

第2文

Perhaps a half billion years after that, / life arose / on the planet.

おそらくそのあと 5 億年ほどして / 生命が生じた / その惑星に

✔ その約 5 億年後に、地球上に生命が誕生した。

---

a half billion years after that は「『そのあと 5 億年ほどして』」という意味で、前文の「地球の形成」を基準にしている。

life arose は「『生命が生じた』」を意味する。arise は「『生じる、発生する』」という重要動詞である。

【ポイント】

・ after that は前の内容を受けて「『そのあと』」を意味する。

---

第 3 文

For the next four billion years, / life became steadily more complex, more varied, and more ingenious, / until, around a million years ago, / it produced mankind / - the most complex and ingenious species of them all.

その後の 40 億年のあいだ / 生命は着実により複雑に、より多様に、より巧妙になっていった / そして約 100 万年前に / それは人類を生み出した / — それらすべての中で最も複雑で巧妙な種を

✔ その後の 40 億年のあいだに、生命は次第により複雑に、より多様に、より巧妙になっていき、そして約 100 万年前に、ついに人類という、あらゆる種の中で最も複雑で巧妙な存在を生み出した。

---

For the next four billion years は期間を表し、「『その後の 40 億年のあいだ』」を意味する。

life became steadily more complex, more varied, and more ingenious が文の中心である。more complex / more varied / more ingenious は比較級で、「『より複雑に / より多様に / より巧妙に』」という意味である。ここでは生命の進化の方向を段階的に示している。

until, around a million years ago は「『そして約 100 万年前に至るまで』」という流れを表す。it produced mankind の it は life を受け、「『生命が人類を生み出した』」という意味になる。produce は「『生み出す』」を意味する。

最後の the most complex and ingenious species of them all は mankind を説明する同格表現で、「『それらすべての中で最も複雑で巧妙な種』」を意味する。ここでの them all は、それまでに存在したすべての生命種を指している。

---

第 4 文

Only six or seven thousand years ago / - a period that is to the history of the earth / as less than a minute is to a year - / civilization emerged, / enabling us to build up a human world, / and to add to the marvels of

evolution marvels of our own : / marvels of art, of science, of social organization, of spiritual attainment.

ほんの 6000～7000 年前になってはじめて / — それは地球の歴史に対して / 1 年に対する 1 分にも満たない時間に等しい期間である — / 文明が出現した / そしてそれは私たちに人間の世界を築き上げることを可能にし / さらに進化の驚異に私たち自身の驚異を付け加えることを可能にした / 芸術の、科学の、社会組織の、精神的達成の驚異を

☑地球の歴史から見ればわずか 6000～7000 年前にすぎない時期に、つまり 1 年に対する 1 分にも満たないほど短い期間にあたる時期に、文明が出現した。そしてそれは、人間の世界を築き上げることを可能にし、さらに進化の驚異に、芸術・科学・社会組織・精神的達成といった人間自身の驚異を付け加えることを可能にした。

Only six or seven thousand years ago は「『ほんの 6000～7000 年前になってはじめて』』という意味で、時間の短さを強調している。

次の挿入部分 a period that is to the history of the earth as less than a minute is to a year が下線部の核心である。これは A is to B as C is to D の構文で、「『A と B の関係は、C と D の関係に等しい』』という意味である。したがってここでは、a period(その 6000～7000 年)と the history of the earth(地球の歴史)の関係は、less than a minute と a year の関係に等しい、という意味になる。つまり、「地球の長大な歴史に比べれば、文明の歴史は 1 年に対する 1 分にも満たないほど短い」という強い比喩である。

主節の civilization emerged は「『文明が出現した』』を意味する。emerge は「『現れる、出現する』』という重要語である。

続く enabling us to build up a human world は分詞構文で、「『そしてそれは私たちに人間の世界を築くことを可能にした』』という意味になる。enable O to do は「『O が～できるようにする』』という重要表現である。

さらに and to add to the marvels of evolution marvels of our own が並列で続く。add A to B は「『A を B に加える』』という意味であり、ここでは the marvels of evolution(進化の驚異)に marvels of our own(私たち自身の驚異)を加えるという構造である。最後の marvels of art, of science, of social organization, of spiritual attainment はその具体例で、「『芸術・科学・社会組織・精神的達成の驚異』』を意味する。

【ポイント】

- ・ A is to B as C is to D は比例・比較の重要構文。
- ・ less than a minute is to a year は「『1 年に対する 1 分にも満たない』』。

## No10

(1)《立教大》

第 1 文

Cat rescue volunteer Eddy Sheffield, / of Gadsden, Alabama, / said / she's seen all kinds of cat owners, / but can't pin down personality traits / that apply to all cat people.

猫の保護ボランティアであるエディ・シェフィールドは / アラバマ州ガズデンの / 述べた / 彼女はあらゆる種類の猫の飼い主を見てきたが / 性格的特徴を特定することはできない / すべての猫好きに当てはまるような

✔アラバマ州ガズデンの猫保護ボランティア、エディ・シェフィールドは、さまざまな猫の飼い主を見てきたが、すべての猫好きに当てはまるような性格的特徴を特定することはできないと述べた。

---

Cat rescue volunteer Eddy Sheffield ... said ... が文の骨格である。Eddy Sheffield が主語で、その前の Cat rescue volunteer は同格で「『猫の保護ボランティアである』」と説明している。of Gadsden, Alabama は「『アラバマ州ガズデンの』」という所在地の補足である。

she's seen all kinds of cat owners は現在完了で、「『あらゆる種類の猫の飼い主を見てきた』」を意味する。all kinds of ~ は「『あらゆる種類の~』」という表現である。

続く but can't pin down personality traits は逆接で、「『しかし性格的特徴を特定できない』」を意味する。pin down は「『特定する、明確にする』」という重要表現である。

最後の that apply to all cat people は personality traits を修飾する関係詞節で、「『すべての猫好きに当てはまる』」を意味する。apply to ~ は「『~に当てはまる』」である。

---

## 第2文

Outsiders might label Sheffield herself / a “crazy cat lady” / because she has 11 cats, / she said, / but she doesn't view herself that way.

外部の人たちはシェフィールド自身を呼ぶかもしれない / 「クレイジーな猫好きの女性」と / 彼女が11匹の猫を飼っている / と彼女は言う / しかし彼女自身は自分をそのようには見ていない

✔彼女は、11匹もの猫を飼っているため、周囲の人々から「猫に夢中な変わり者の女性」と見られるかもしれないが、自分ではそのようには思っていないと語った。

---

Outsiders might label Sheffield herself a “crazy cat lady” が中心である。label O C の形で、「『OをCと呼ぶ、みなす』」を意味する。ここではO = Sheffield herself C = a “crazy cat lady”である。

because she has 11 cats は理由を表し、「『11匹の猫を飼っている』」という意味である。

she said は挿入的に用いられている。but she doesn't view herself that way は対比で、「『しかし彼女は自分をそのようには見ていない』」を意味する。

## 【ポイント】

- ・ view O as C に近い意味を持つ。
- ・ that way は「『そのように』」。

## 第3文

“All of them are rescued cats / and they need a place to go, / and I had room, / that’s how I ended up / with that many,” / she said.

それらはすべて保護された猫であり / 行く場所が必要であり / そして私は余裕があった / だから私はそういう結果になった / それほど多くの猫を持つことに

☑「それらはすべて保護された猫で、行き場が必要だったし、私には余裕があった。だからこんなに多くの猫を飼うことになったのです」と彼女は言った。

All of them are rescued cats は「『それらはすべて保護された猫である』」を意味する。

rescued cats は「『保護された猫』」。

they need a place to go は「『彼らには行き場が必要だ』」を意味する。a place to go は不定詞の形容詞用法で「『行くための場所』」である。

I had room は「『私は余裕(スペース)があった』」という意味である。

end up with ~ は「『最終的に~という結果になる』」を意味する。したがって「『そうしてそんなに多くを持つことになった』」となる。

## 【ポイント】

- ・ that’s how ... 「そのようにして...」

## 第4文

Owning that many / has also got her more involved in rescue efforts, / which has put her into more contact with other people, / not less.

それほど多くを飼うことは / 彼女を保護活動により深く関わらせることにもなった / そしてそれは彼女を他の人々とのより多くの接触へと導いた / 減るところか

☑そんなに多くの猫を飼っていることは、彼女を保護活動により深く関わらせることにもなり、その結果、彼女はむしろ他の人々とより多く接するようになったのであって、減ったわけではない。

Owning that many が主語で、「『それほど多くを飼うこと』」を意味する。動名詞句が主語になっている。

次に has also got her more involved in rescue efforts が文の中心である。ここが get O C の構文である。get = 動詞 her = 目的語 more involved in rescue efforts = 補語したがって、get O C は「『O を C の状態にする』」という意味になる。ここでは、has got her more involved in rescue efforts で「『彼女を保護活動により深く関わった状態』」

にすることになった』すなわち自然な日本語では『彼女を保護活動により深く関わらせることになった』という意味になる。involved in ~ は『~に関わっている』という重要表現である。続く which has put her into more contact with other people は前の内容全体を受け関係詞節で、『その結果、彼女を他の人々とのより多くの接触へと導いた』という意味になる。put O into contact with ~ は『O を~と接触させる』『O が~と関わるようにする』という表現である。

最後の not less は強い対比を表し、『減ったのではなく、むしろ増えた』という意味である。文全体としては、「多くの猫を飼うことは、彼女を保護活動により深く関わらせ、その結果として他の人々とのつながりもむしろ増やした」と述べている。

#### 【ポイント】

- has got her more involved in rescue efforts は一まとまりで取るのが自然である。
- not less は『減るところか』という対比強調。

---

## (2)《岐阜大》

### 第1文

There have been times in my life / when I have felt truly lost, / not just unhappy, / but truly out of step with the world.

私の人生には時があった / 私が本当に道を見失ったように感じた / ただ不幸だっただけでなく / 本当に世界とずれているように

☑ 私の人生には、本当に自分を見失ったように感じた時期があった。ただ不幸だっただけではなく、本当にこの世界と調和できず、ずれているように感じた時期である。

---

There have been times in my life が文の骨格である。there have been ~ は現在完了の存在構文で、『~があった』を意味する。times in my life は『私の人生の中での時期』を表している。

次の when I have felt truly lost は times を修飾する関係副詞節で、『その時私は本当に道を見失ったように感じた』を意味する。feel lost は『途方に暮れる、自分を見失ったように感じる』という表現である。truly は『本当に、心から』と強調している。

続く not just unhappy, but truly out of step with the world は言い換えと強調である。not just A, but B は『ただ A というだけでなく、B だ』を意味する。out of step with ~ は『~と歩調が合わない、~とずれている』という重要表現である。したがってここでは、「単に気分が落ち込んでいたというだけではなく、世界そのものと調和できないように感じていた」という意味になる。

---

### 第2文

You know those periods / when you seem to have a dark cloud following you around, / a cloud so heavy / it doesn't even allow you / to perform the simplest of tasks.

あなたはそういう時期を知っている / 自分のあとを暗い雲がついて回っているように思える / とても重い雲が / それはあなたに許しさえしない / 最も簡単な仕事をする事さえあなたも、暗い雲が自分のあとをついて回っているように思える時期を知っているだろう。しかもその雲はとても重く、いちばん簡単なことをすることさえ許してくれないほどである。

You know those periods が文の骨格である。You know ... は『あなたもそういう時期を知っているだろう』という意味で、読み手の共感を引き出す表現である。those periods は『そういう時期』を意味する。

次の when you seem to have a dark cloud following you around が periods を修飾している。ここが今回の中心である。まず seem to do は『～するに思える』を意味する。そして have a dark cloud following you around が have O Ving の形である。have = 動詞 a dark cloud = 目的語 following you around = 現在分詞句(目的語の状態を表す)したがって、have O Ving は『O が～している状態である』『O に～してもらおう』などを表すが、ここでは『暗い雲が自分のあとをついて回っている状態にある』という意味である。a dark cloud は比喩表現で、『暗い雲』は憂うつさ、不運、重苦しい気分を表している。follow you around は『あなたのあとをついて回る』を意味する。

続く a cloud so heavy は前の a dark cloud を受けて、『とても重い雲』と説明している。そのあとに it doesn't even allow you to perform the simplest of tasks が続く。allow O to do は『O が～するのを許す』perform the simplest of tasks は『いちばん簡単な作業をする』を意味する。the simplest of tasks は『最も簡単な仕事・作業でさえ』という強調を含む表現である。even によって、「それほど簡単なことすらできない」ことが示される。

#### 【ポイント】

・ have a dark cloud following you around は『暗い雲が自分のあとをついて回っている状態だ』を意味する。

#### 第3文

You can't find any joy / in anything.

あなたはどんな喜びも見いだせない / 何の中にも

✔何の中にも喜びを見いだせない。

You can't find any joy が文の中心である。can't find は『見いだせない』、any joy は『少しの喜びも』を意味する。

続く in anything は『何の中にも』という意味で、否定文の中で用いられて「どんなものの中にも～ない」という全面否定を表している。

#### 第4文

In fact, / just being human / is a struggle.

実際 / ただ人間でいることそのものが / 苦闘である

✔ 実際、ただ人間として生きていることそのものが苦しみなのである。

---

In fact は『『実際、実のところ』』を意味する副詞句で、前文をさらに強めている。

次に just being human が主語である。being human は動名詞句で、『『人間でいること、人間として生きること』』を意味する。just は『『ただ～するだけで』』という意味で、日常のごく基本的な存在そのものが苦しいことを強調している。

最後の is a struggle は『『苦闘である、つらい営みである』』を意味する。struggle は『『奮闘、苦闘』』であり、ここでは名詞として使われている。

---

### 【3】《大阪大》

#### 第1文

If, / as I intend, / I go on living in New Mexico, / I suppose / I shall know it far better / than I do now, / but I suppose / I shall never again see it / as clearly / as during my first year.

もし / 私が意図している通りに / ニューメキシコで暮らし続けるなら / 私は思う / それを今よりずっとよく知るようになるだろうと / 今そうであるよりも / しかし私は思う / 二度とそれを見ることはないだろうと / これほどはっきりとは / 最初の一年のあいだほど

✔ もし、私の考えている通り、この先もニューメキシコに住み続けるなら、私はこの土地を今よりはるかによく知るようになるだろう。だが、最初の一年のあいだほどはっきりとこの土地を見ることは、もう二度とないだろうとも思う。

---

If ... I go on living in New Mexico が条件節で、『『もしこのままニューメキシコに住み続けるなら』』を意味する。go on Ving は『『～し続ける』』という重要表現である。

途中の as I intend は挿入表現で、『『私が意図している通りに』』『『私の考えでは』』という意味である。つまり、話し手は今後もニューメキシコに住み続けるつもりだということを補足している。

主節の I suppose I shall know it far better than I do now は、『『私はこの土地を今よりずっとよく知るようになるだろうと思う』』という意味である。I suppose は『『～だと思ふ』』 shall know it far better は『『それをはるかによく知るようになるだろう』』than I do now は『『今そうであるよりも』』を表している。ここでの it は New Mexico を指す。

後半の but I suppose I shall never again see it as clearly as during my first year は対比である。know は知識や経験の蓄積による理解を表しているのに対し、see it clearly は『『はっきりと見る』』、つまり新鮮な目で鮮明に感じ取ることを表している。

as clearly as during my first year は『『最初の一年のあいだほどはっきりとは』』という比較である。

---

## 第2文

And / what is there / about this land / which sets travelers / to altering their schedules and overstaying?

そして / 何があるのか / この土地について / それは旅人たちを駆り立てる / 自分たちの日程を変えることと長居することへ

☑そして、この土地のいったい何が、旅人たちに予定を変えさせ、長居をさせるのだろうか。

what is there about this land ... ? は疑問文で、「『この土地のいったい何が～なのか』」という意味である。there is の形を使って、「この土地に何か特別なものがあるのか」を問うている。

which sets travelers to altering their schedules and overstaying がその what の内容を説明している。ここでの set O to Ving は「『O を Ving する気にさせる』『O を Ving へと駆り立てる』」という表現である。したがって sets travelers to altering their schedules and overstaying は「『旅人たちに予定を変えさせ、長居させる』」という意味になる。altering their schedules は「『予定を変更すること』」overstaying は「『長居すること、予定以上にとどまること』」を意味する。ここは altering their schedules and overstaying を一まとまりで取るほうが自然である。

## 第3文

What is there, / more forcefully still, / that has seized upon astonishing numbers of people / who came to look, / and then put down their luggage / and remained?

いったい何があるのか / さらにいっそう強く言えば / 驚くほど多くの人々をとらえてしまった / 見に来た / そしてそれから荷物を置き / とどまった

☑さらにいっそう強く言えば、いったい何が、見に来ただけだったのに、そのまま荷を下ろして住みついてしまった驚くほど多くの人々をとらえてしまったのだろうか。

What is there ... ? は前文と同様、「『いったい何があるのか』」という問いである。

途中の more forcefully still は挿入表現で、「『さらにいっそう強く言えば』『もっと踏み込んで言えば』」という意味である。ここでの still は副詞で、「『さらに、いっそう』」の意味を添えている。したがって more forcefully still 全体で、「『さらにいっそう強い調子で言えば』」という意味になる。前文よりも一段深い問いに進んでいる。

次の that has seized upon astonishing numbers of people が中心である。seize upon ~ はここでは「『～を強くとらえる』『～の心をつかむ』」という意味である。astonishing numbers of people は「『驚くほど多くの人々』」を意味する。

そのあとに who came to look, and then put down their luggage and remained が people を修飾している。came to look は「『見に来た』」put down their luggage

は『荷物を下ろした』remained は『そのままとどまった』を意味する。  
つまり、「ただ見物しに来ただけだったのに、そのまま住みついてしまった人々」のことである。

---

#### 第4文

As it has upon me.

ちょうどそれが私をとらえたように

---

これは前文を受けた省略的表現である。完全な形で言えば、..., as it has seized upon me. のように考えられる。

本来は前文に続けて..., as it has ... のようにつながるところだが、内容が長いため、ここではいったん文を切って強調している。また、同じ表現の繰り返しを避けるために、has seized が省略され、As it has upon me という形になっていると考えられる。as はここでは『~のように』を意味し、前文で述べた「この土地に心をつかまれた人々」の中に、自分自身も含まれていることを短く強く示している。

---

#### 第5文

I had no intention / of living here.

私は意図を持っていなかった / ここに住むという

✔ 私はここに住むつもりはまったくなかった。

---

have no intention of Ving は『~するつもりはない』という重要表現である。したがって I had no intention of living here は『ここに住むつもりはなかった』を意味する。

---

#### 第6文

When in late August / we drove through / - a hurricane / out of our Connecticut village - / my wife, / three of my children, / with eleven pieces of lightweight baggage, / and trustful that / though New London was flooded / we might get a train in Hartford - / we were leaving for a year.

8月下旬に / 私たちが車で出発したとき / — ハリケーンの中を通過して / コネティカットの私たちの村を出て — / 私の妻と / 私の3人の子どもたちと / 11個の軽い荷物を持って / そしてこう信じながら / ニューロンドンには洪水だったが / ハートフォードでは列車に乗れるかもしれないと — / 私たちは1年間のつもりで出発していた

✔ 8月下旬、私たちがコネティカットの村をハリケーンの中を通過して出発したとき、そこには妻と3人の子どもたち、11個の軽い荷物があり、ニューロンドンには水浸しでもハートフォードでは列車に乗れるだろうと信じていたのだが、そのとき私たちは1年間だけのつもりで旅立っていたのである。

---

When in late August we drove through ... out of our Connecticut village ... が時を表す節で、『8月下旬に私たちがコネティカットの村を出発したとき』を意味する。途中

の a hurricane は挿入的に入り、「『ハリケーンの中を』』という状況説明になっている。そのあとに my wife, three of my children, with eleven pieces of lightweight baggage という挿入句が続き、同行者と荷物の状況を描写している。my wife 「『私の妻』』 three of my children 「『私の3人の子どもたち』』with eleven pieces of lightweight baggage 「『11個の軽い荷物を持って』』である。さらに and trustful that ... が続き、「『そして～だと信じて』』という意味になる。trustful that ... は「『…だと信じている』』を表す。though New London was flooded は譲歩で、「『ニューロンドンに洪水だったけれど』』を意味する。we might get a train in Hartford は「『ハートフォードでは列車に乗れるかもしれない』』という意味である。

主節の we were leaving for a year は、一まとまりで「『私たちは1年のつもりで出発していた』』を意味する。つまり、定住するつもりはなく、最初は一時的な滞在のつもりだったということである。

#### 【ポイント】

- ・ 長い挿入が多い文で、主節は we were leaving for a year.

#### 第7文

I had lived all my more than forty years / in New England, / I wanted a change, / and I wanted to see the Southwest.

私は自分の40年以上の年月のすべてを過ごしてきた / ニューイングランドで / 私は変化を望んでいた / そして私は南西部を見たいと思っていた

- ☑ 私は40年以上の人生をずっとニューイングランドで過ごしてきたので、何か変化がほしかったし、南西部を見てみたいとも思っていた。

I had lived all my more than forty years in New England は「『私は40年以上の人生のすべてをニューイングランドで過ごしてきた』』を意味する。had lived は過去完了で、その時点までの長い生活の積み重ねを表している。

続く I wanted a change は「『私は変化を求めていた』』という意味である。長く同じ土地で暮らしてきた反動として、新しいものを求める気持ちが示されている。

最後の and I wanted to see the Southwest は、一まとまりで「『そして南西部を見てみたかった』』という意味である。ここでの the Southwest はアメリカ南西部、つまりニューメキシコを含む地域を指している。